

サーマルカメラ搭載ドローンによる鳥獣生息域調査及び映像配信の実証実験

取り組む背景

- 全国的に鳥獣による農林作物の被害は深刻化しており、食害や環境の悪化等が社会問題となっている。
- 害獣は1年を通して出没し、農作物への被害に加え、住宅地や通学路にも影響を及ぼしている。
- 食害により、農業従事者の営農意欲が低下し、耕作放棄地の増加など、さらなる悪循環を引き起こす恐れがある。

事業内容

- サーマルカメラを搭載したドローンを活用し、鳥獣の生息域の特定を図る。
- ドローンによる調査を通じて、害獣の移動経路や巣を把握し、より捕獲効率の高い場所に罠を設置することで捕獲数の増加を目指す。
- リアルタイムで害獣の位置情報やドローンで撮影した映像を共有し、迅速な対応を可能とする。

期待される効果

- ✓ ドローンを活用した効率的な調査により、害獣の捕獲計画の精度が向上し、捕獲数の増加につながる。
- ✓ 農作物被害の軽減により、農業従事者の負担を減らし、営農意欲の向上が期待できる。
- ✓ 営農意欲の低下がもたらす耕作放棄地の増加といった二次的な被害の抑制につながる。

ドローンを活用した害獣調査・探索

サーマル画像は表面温度を可視化するため害獣の見極めが容易であり、高解像度画像で害獣の種類を把握することが可能。

山林等の上空をドローンが飛行し、サーマル画像を撮影する。

